

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5460m以下の寒冷渦に対応する低気圧が日本の東を北上。北海道のオホーツク海側では弱い雪の降っている所がある。
- ② 500hPa 5460m付近の別の寒冷渦に対応して、前線を伴う低気圧が、発達しながら日本の南をゆっくり東南東進。日本の南で雷を多数検知し、やや強い雨を解析。
- ③ ①②の低気圧周辺と日本海や東シナ海付近の高気圧の南縁では、気圧の傾きが大きくなり、全国的に強い風が吹いて波が高くなり、北～西日本の太平洋側と南西諸島ではうねりを伴いしけている所がある。



主要じょう乱解説図

また、八丈島のWPR最下層では60kt前後の北東の風を観測、伊豆諸島南部では非常に強い風が吹いて大しけとなっている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、14日は千島近海に進み、15～16日はオホーツク海を北西進する。
- ② 1項②の低気圧は、14日は、閉塞しながら小笠原近海を東進し、夜までに閉塞点上の日本の東に別の低気圧が発生する。15日は、小笠原近海の低気圧は不明瞭になり、日本の東の低気圧は日本の北東に進む。
- ③ 本州～南西諸島付近は16日にかけて、大陸や黄海及び日本海の高気圧に緩やかに覆われる。
- ④ 2項①②の低気圧の周辺や③の高気圧の南縁では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、海上はうねりを伴い波が高くなりしける所がある。全国的に、15日にかけて強風や風雪に注意し、16日にかけてうねりを伴う高波に注意。特に、2項②の低気圧の影響で、伊豆諸島では14日は、非常に強い風が吹いて猛烈なしけとなる。強風に注意・警戒し、高波に嚴重に警戒。小笠原諸島では15日にかけて、南西諸島では14日は、大しけとなる所がある。高波に警戒。
- ⑤ 2項②の低気圧の影響で、伊豆諸島と小笠原諸島では14日午前中を中心に、大気の状態が不安定となり、雷を伴い強い雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島9、小笠原諸島8、沖縄6、関東・奄美5、その他3～4m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。